

進路便り (高校版)

2017年9月29日 発行

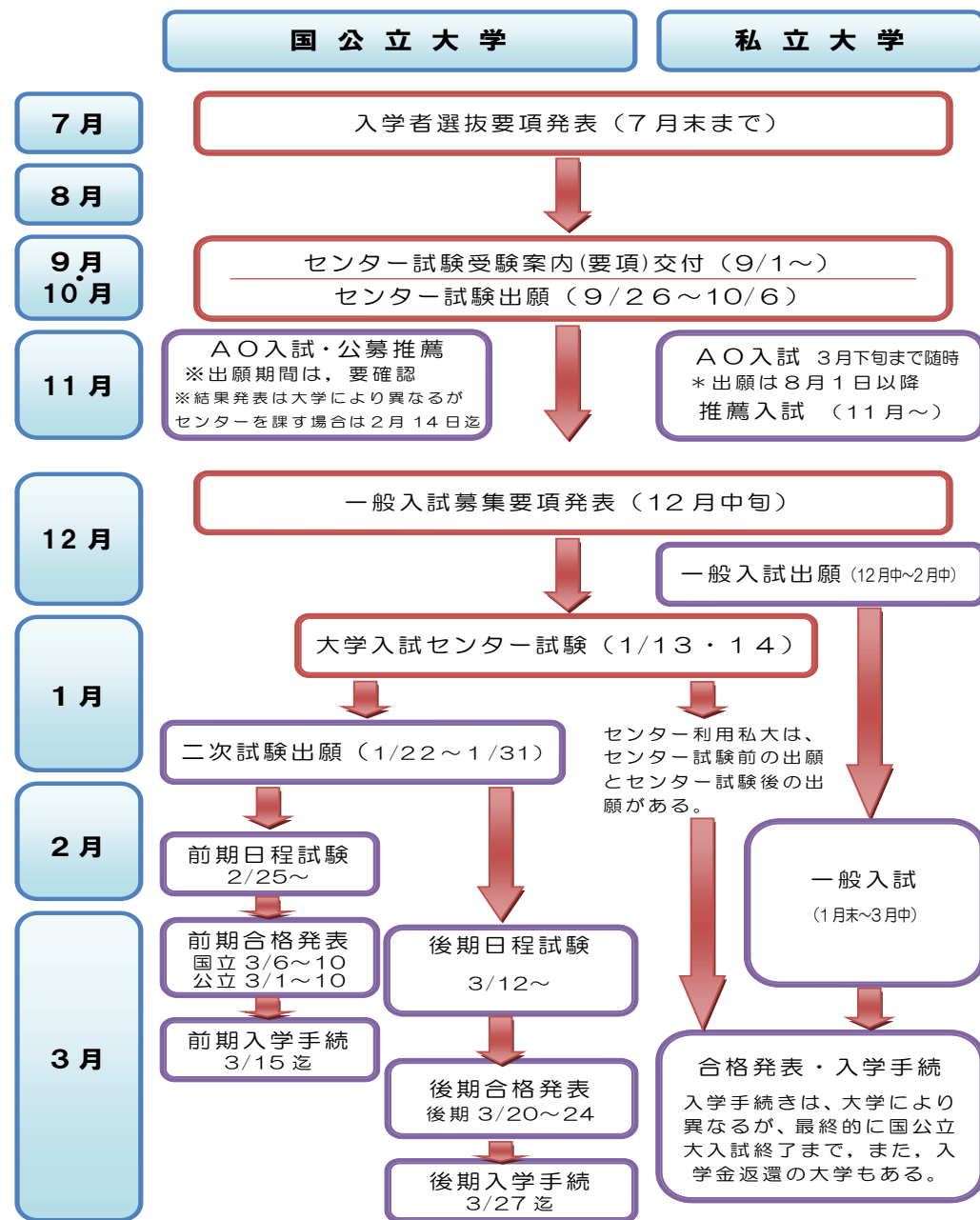
東明館高等学校 進路指導部



2学期も1ヶ月がすぎました。1・2年生は、学校行事や部活動の中心となり充実した学校生活を送っていると思います。3年生は、センター試験の出願・推薦・AO入試などいよいよ受験本番を迎える時期になりました。それぞれの学年によって程度の差はあるにしても、共通することは「やるが多すぎて時間が足りない」ということではないでしょうか。焦る気持ちはわかりますが、大事なことは目標を持って、毎日の学習をはじめとするやるべき事に確実に取り組むことが大切です。学習面については、1年生は、「高校生」としての学習習慣が身についているのかももう一度確認すると同時に、2年生から文系・理系のコースに分かれますので、自分自身の進路目標を定めて欲しいと思います。2年生は、受験勉強スタートに向けて学習習慣を見直す時期であり、具体的な志望大学・学部を設定することも大事なことです。学習時間については、1年生は平日2時間以上、休日3時間以上は確保して欲しいと思います。2年生は平日3時間以上、休日4時間以上を確保することを目標にして欲しいと思います。特に数学の予習復習など自力で問題を解く習慣や英語の学習時間は毎日1時間以上確保するようにして欲しいと思います。

○大学入試スケジュール

「進学ガイド」にも掲載していますが、今年度入試スケジュールを掲載しています。3年生はもちろんですが、1・2年生も大学入試のスケジュールを知ることで、今後の受験勉強の計画を立てる際に活用して欲しいと思います。



○模試の活用について

3年生は自分の志望大学に向けて受験勉強に取り組んでいると思いますが、特に3年生になって回数が増えた模試については、以下の観点から模試を軸に学習をして欲しいと思います。

- ①模試を入試本番と考えて受験しよう → 模試実施日を入試本番と考えて準備し、実力を出し切るようにしてください。
- ②時間配分を考えよう → 見直し不足によるケアレスミスを防ぐため、模試でも時間配分を意識して取り組んでください。
- ③より多く得点できる答案作りをしよう → 入試では1点の差で合否が分かれるため、減点のない、ポイントを網羅した答案作成を意識して模試を受けて下さい。
- ④自己採点をしよう → マーク模試を利用して、センター試験に向けた自己採点の練習をしておくことが大切です。当たり前ですが、自己採点と返却結果が一致するようにして下さい。

○志望校別受験対策について

受験までの対策を志望校別にまとめてみました。自分に合った対策を見つけ、一日一日の時間を大切にして効率よく学習して下さい。

	～11月	～センター試験	～個別学力検査
センター試験重視 国公立大	徹底的に基礎を固める 過去に受験した模試や実力考査の解き直しをしましょう。その際、不正解の問題だけでなく、あいまいなまま正解した問題も全てチェックし、不安な分野を1つずつなくすことが大切です。センター試験で確実に得点できるよう基礎力を強化しましょう。	センター試験対策に重点 センター試験の過去問・予想問題の演習に取り組み、不正解箇所は、教科書の基本に戻って復習しておくことが大切です。正解箇所についても再確認し、あいまいな部分も完全に理解するよう心がけましょう。また、毎回目標時間を決め、時間を計って問題を解くようにしましょう。	焦らずに自分の力を信じる 個別学力検査までの約1か月間は、志望校の出題傾向に沿った対策を徹底的に行う時期です。センター試験の結果によっては出願校変更もあり得ますが、焦ることなく受験準備に取り組みましょう。自分の力を信じて最後まであきらめずにがんばることが大切です。
個別学力検査重視 国公立大	苦手分野をすべて克服する この時期は個別学力検査対策に集中しましょう。受験校の出題形式や傾向をしっかり確認しておくことが大切です。特に「個別学力検査に課される科目のうち最低2科目で苦手分野をなくす」ことを心がけ、徹底的に苦手を克服しましょう。	あやふやな知識をなくす この時期から学習内容をセンター試験対策中心に切り替えます。まずはあやふやな知識のままで正解していたところを完全に理解することが大切です。過去に受験したマーク模試の復習が効果的です。また、実際の制限時間よりも少し短めに時間を設定して問題演習をするようにしましょう。	あきらめずに逆転をめざす センター試験の結果に安心せず、個別学力検査までは過去問を中心に問題演習を続けましょう。たとえセンター試験で失敗しても、これまでのがんばりがあれば、個別学力検査で逆転の可能性もあります。最後まであきらめない気持ちで臨むことが大切です。
私立大	得意科目を伸ばす この時期には、難易度に幅を持たせて、受験校を数校に絞り込みましょう。学習面では、苦手な分野をなくすとともに、得意科目を1つでも多くつくるのが大切です。第1志望校の受験準備として、過去問の傾向・内容をよく調べ、類題を数多くこなして問題に慣れておきましょう。	基礎・基本は完璧な理解を センター試験対策を通して、各教科の基礎・基本の強化を図りましょう。第1志望校の受験科目の中で、高得点をねらえる得意科目を持っておくと強みになります。理科、地歴・公民は教科書の基本事項から出題されることが多いので、比較的短期間で成績を伸ばすことができるかもしれません。	併願校の入試で予行演習 第1志望校の受験が後半になるようにスケジュールを組み、併願校の入試を予行演習として利用するのも1つの方法です。センター試験や併願校の入試で弱点が見つければ、その都度復習を繰り返し、第1志望校の入試当日に学力がピークになるように計画を立てましょう。

(ベネッセ「ハイスクールオンライン」より作成)

その理由をお話しましょう。創造性を育てるうえで、特に、心がけなければならないことは、時間的、心理的な「ゆとり」を持つこと、ものごとにとらわれ過ぎないこと、豊か過ぎないこと、飽食でないことなどが挙げられます。自らで考えることにじっくり時間をかけること、そして時間的にも心理的にもゆったりとすることが最も大切となります。子供の頃はちょっと思い出して下さい。子供の頃は、例えば、夏休みがゆっくり過ぎていたと感じませんか。大人になると、忙しさで、時間は走馬灯のように速く過ぎていきます。脳科学者のDavid Eagleman（デイウィッド イーグルマン）さんは「記憶が詳細なほど、その瞬間は長く感じられる。しかし、周りの世界が見慣れたものになってくると、脳が取り込む情報量は少なくて済み、時間が速く過ぎ去っていくように感じられる」と言っています。自分の時間を有効に使うために、自力で時の流れを遅くする必要があります。そのために五つの方策が提案されていることは良く知られています。

- 一、学び続けること。新しい経験が得られて、時間感覚がゆっくりとなる。
- 二、新しい場所を訪ねる。定期的に新しい環境に脳をさらす。
- 三、新しい人に会う。他人とのコミュニケーションは脳を刺激する。
- 四、新しいことを始める。新しい活動への挑戦。
- 五、感動を多くする。

信州大学では、自然に囲まれた緑豊かなキャンパスでの勉学と課外活動、都会の喧騒とは無縁の落ち着いた生活空間、モノやサービスなどが溢れることのない地に足の着いた社会など、知的にものごとを考え、創造的な思考を育てる環境を簡単に手に入れることができます。先輩諸氏は、このようにして、ゆっくりとした時間の流れを作っていたのです。

皆様はどうでしょうか。残念なことですが、昨今、この信州でもモノやサービスが溢れ始めました。その代表例は、携帯電話です。アニメやゲームなどいくらでも無為に時間を潰せる機会が増えています。スマホ依存症は知性、個性、独創性にとって毒以外の何物でもありません。スマホの「見慣れた世界」にいると、脳の取り込み情報は低下し、時間が速く過ぎ去ってしまいます。「スマホやめますか、それとも信大生やめますか」 スイッチを切って、本を読みましょう。友達と話をしましょう。そして、自分で考えることを習慣づけましょう。自分の持つ知識を総動員して、ものごとを根本から考え、全力で行動することが、独創性豊かな信大生を育てます。